

2024 年 8 月 11 日

主日礼拝

《礼拝》

礼拝讃美歌⇒483 番 (SK 兄)

『人生の海の嵐に』

聖書⇒ゼカリヤ書 9 章 9~10 節 (MM 姉)

『娘シオンよ、大いに踊れ。娘エルサレムよ、歡呼の声をあげよ。見よ、あなたの王が来る。彼は神に従い、勝利を与えられた者／高ぶることなく、ろばに乗って来る／雌ろばの子であるろばに乗って。わたしはエフライムから戦車を／エルサレムから軍馬を絶つ。戦いの弓は絶たれ／諸国の民に平和が告げられる。彼の支配は海から海へ／大河から地の果てにまで及ぶ。』

礼拝讃美歌⇒505 番 (旧 31 番曲)

『主は王なり』

聖書⇒マタイによる福音書 13 章 45~46 節 (ES 姉)

『また、天の国は次のようにたとえられる。商人が良い真珠を探している。高価な真珠を一つ見つけると、出かけて行って持ち物をすっかり売り払い、それを買う。』

聖書⇒フィリピの信徒への手紙 3 章 5~9a 節

『わたしは生まれて八日目に割礼を受け、イスラエルの民に属し、ベニヤミン族の出身で、ヘブライ人の中のヘブライ人です。律法に関してはファリサイ派の一員、熱心さの点では教会の迫害者、律法の義については非のうちどころのない者でした。しかし、わたしにとって有利であったこれらのことを、キリストのゆえに損失と見なすようになったのです。そればかりか、わたしの主キリスト・イエスを知ることのあまりのすばらしさに、今では他の一切を損失とみています。キリストのゆえに、わたしはすべてを失いましたが、それらを塵あくと見なしています。キリストを得、キリストの内にいる者と認められるためです。』

(祈)

聖書⇒イザヤ書 40 章 28~31 節 (SK 兄)

『あなたは知らないのか、聞いたことはないのか。

主は、とこしえにいます神／

地の果てに及ぶすべてのものの造り主。

倦むことなく、疲れることなく／

その英知は究めがたい。

疲れた者に力を与え／

勢いを失っている者に大きな力を与えられる。

若者も倦み、疲れ、勇士もつまずき倒れようが

主に望みをおく人は新たな力を得／

鷺のように翼を張って上る。

走っても弱ることなく、歩いても疲れない。』

(祈)

礼拝讃美歌⇒22 番 (旧 183 番曲) (KH 兄)

『天地こぞりて』

《パン裂き》

聖書⇒ルカによる福音書 22 章 14~16、19~20 節 (KH 兄)

『時刻になったので、イエスは食事の席に着かれたが、使徒たちも一緒だった。イエスは言われた。「苦しみを受ける前に、あなたがたと共にこの過越の食事をしたいと、わたしは切に願っていた。言っておくが、神の国で過越が成し遂げられるまで、わたしは決してこの過越の食事をとることはない。」

それから、イエスはパンを取り、感謝の祈りを唱えて、それを裂き、使徒たちに与えて言われた。「これは、あなたがたのために与えられるわたしの体である。わたしの記念としてこのように行いなさい。」食事を終えてから、杯も同じようにして言われた。「この杯は、あなたがたのために流される、わたしの血による新しい契約である。』

(式)

礼拝讃美歌⇒148 番 (旧 94 番曲)

『主の御旨により』

《建徳》

聖書⇒詩編 42 編 10~12 節 (TM 兄)

『わたしの岩、わたしの神に言おう。

「なぜ、わたしをお忘れになったのか。なぜ、わたしは敵に虐げられ／嘆きつつ歩くのか。」

わたしを苦しめる者はわたしの骨を砕き／

絶え間なく嘲って言う／

「お前の神はどこにいる」と。

なぜうなだれるのか、わたしの魂よ／

なぜ呻くのか。神を待ち望め。

わたしはなお、告白しよう／

「御顔こそ、わたしの救い」と。

わたしの神よ。』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 8 章 32 節

『わたしたちすべてのために、その御子をさえ惜しまず死に渡された方は、御子と一緒にすべてのものをわたしたちに賜らないはずがありませんか。』

聖書⇒ヨブ記 35 章 14 節

『あなたは神を見ることができないと言うが／

あなたの訴えは御前にある。あなたは神を待つべきなのだ。』

聖書⇒コヘレトの言葉 3 章 1~8 節

『何事にも時があり／天の下の出来事にはすべて定められた時がある。

生まれる時、死ぬ時／植える時、植えたものを抜く時

殺す時、癒す時／破壊する時、建てる時

泣く時、笑う時／嘆く時、踊る時

石を放つ時、石を集める時／抱擁の時、抱擁を遠ざける時

求める時、失う時／保つ時、放つ時

裂く時、縫う時／黙する時、語る時

愛する時、憎む時／戦いの時、平和の時。』

聖書⇒ヨハネの手紙一 5 章 14 節

『何事でも神の御心に適うことをわたしたちが願うなら、神は聞き入れてくださる。これが神に対するわたしたちの確信です。』

聖書⇒ルカによる福音書 15 章 25~32 節 (KH 兄)

『ところで、兄の方は畑にいたが、家の近くに来ると、音楽や踊りのざわめきが聞こえてきた。そこで、僕の一人を呼んで、これはいったい何事かと尋ねた。僕は言った。『弟さんが帰って来られました。無事な姿で迎えたというので、お父上が肥えた子牛を屠られたのです。』兄は怒って家に入ろうとはせず、父親が出て来てなだめた。しかし、兄は父親に言った。『このとおり、わたしは何年もお父さんに仕えています。言いつけに背いたことは一度もありません。それなのに、わたしが友達と宴会をするために、子山羊一匹すらくれなかったではありませんか。ところが、あなたのあの息子が、娼婦どもと一緒にあなたの身上を食いつぶして帰って来ると、肥えた子牛を屠っておやりになる。』すると、父親は言った。『子よ、お前はいつもわたしと一緒にいる。わたしのものは全部お前のものだ。だが、お前のあの弟は死んでいたのに生き返った。いなくなっていたのに見つかったのだ。祝宴を開いて楽しみ喜ぶのは当たり前ではないか。』』

聖書⇒ローマの信徒への手紙 12 章 15~16 節

『喜ぶ人と共に喜び、泣く人と共に泣きなさい。互いに思いを一つにし、高ぶらず、身分の低い人々と交わりなさい。自分を賢い者とうぬぼれてはなりません。』

礼拝讃美歌⇒259 番 (旧 119 番) (KH 兄)

『父神の愛と』

《建徳要旨》